



三田市  
森哲男 市長

関西学院大学  
村田治 学長

**市長** 私の経験上、地域を元気に変えていくためには、「よそ者、若者、ばか者」特に若者には、新しい発想や感性、チャレンジ精神があり、地域の活性化にはその力が必要不可欠です。何より、最近感じることは、若者が頑張っている姿は、子どもたちにもシニアにとっても、とてもよい刺激となっており、他の世代も元気が出てくるということです。波及効果の大きさを実感しています。例えば、市が取り組んでいる「学生のまち推進事業」▽まちづくりワークショップ▽まちづくりコンテスト&交流会▽助成金によるまちづくり活動応援制度▽や、イベントへの参画など、さまざまな関わりの中で三田を元気にしてくれています。市内にとどまらず市外でも、災害支援やボランティアなど、多岐にわたり活躍されています。また、「若者」という中で、学生以外にも青年会議所など市内の若手経営者との連携を進めています。

今後さらには、若者には、大学などで得た知識や学びも生かしながら、新しい発想や感性を持って地域と関わり、いろいろなことにチャレンジして欲しいと思います。

**学長** 本当に今の学生は、よく勉強していますし、大きな力を持っています。少しのきっかけでも、ものすごい力を発揮します。そうした「機会」を設定することも我々の大切な役割だと考えます。4年前、西宮上ヶ原キャンパスの時計台でプロジェクトシヨノンマッピング（物体に映像を投影する表現手法）をした際も、全て学生が考えてプログラムを一から創り上げました。学生の力を改めて感じましたね。

**市長** そうですね。学生の皆さんが市のオープンデータを教材として活用し、分析結果に基づき考えた提案を政策形成へ反映する仕組みづくりなどを考えています。他にも、令和4年からスタートする新しいまちづくりの10年計画「第5次総

合計画」において、これまでとは違った策定の仕組みを検討しています。未来の三田を皆さんと共に創り上げていくためには、策定のプロセスが重要ですので、多くの市民の皆さんに意見や提案をいただきながら計画づくりを進めていきたいと思っています。また、本計画は、さまざまな課題に直面している三田市の現状を踏まえ、10年後の三田市の変化を想定しながらつくっていくものです。高等教育機関の皆さんが持つ知見だけではなく、学生をはじめとする若い人たちの力が必要であると考えていますので、学生の皆さんにもぜひ参加してほしいと思います。

**学長** 学生にとつて、とてもよい機会だと思います。大学入学当時は答えが決まっている問題しか知りません。しかし、社会に出れば答えがある問題はないのです。答えがないものに対してどのように対応できるのか、いかに課題を見つけ出せるかが大切で、それを学ぶことが実社会に出る前に一番重要だと考えます。学生にはそういった機会を大切にして、積極的にチャレンジしてほしいと思います。

**市長** 学生の皆さんの発想や感性、チャレンジがこれまでの地域づくりと融合することで、まちづくりに新しい価値をもたらし、まち自体を変えていく原動力になると考えています。

### 贈る言葉

#### 「未来を担う「若者」へ」

本日の対談を通じて、地域創生において必要とされる「若者の力」とはどういったものか、今後、大学・市それぞれの立場でその力をどのように生かしていくべきかなどについて「共創」の視点から考えることができました。最後に「若者」へメッセージをお願いします。

**学長** 失敗しても、とにかくチャレンジし続けてほしい。一生涯成長している

いうことを自分で実感してほしい。人間は、絶えず自分が成長していることを実感していれば幸せに思えますし、自己実現に取り組むというのは非常に大きいと思います。世界は変化し続けています。変化をするのであれば、それを自分たちの社会がよりよくなる方向に変化させればよい、だからこそ、チャレンジは重要だと伝えたいです。

**市長** これからは、「人口減少に負けないまちづくり」―人口が減少しても市民一人一人がそれぞれ、幸せを感じられるようなまちにしていかなければなりません。そのためには、課題の本質に気付くことが重要です。従来の視点では課題の本質に気付けないこともあります。若い皆さんには、学校での学びや地域の人たちとの交流などを生かして、新しい視点から課題について考えてほしいと思います。課題があることは「ピンチ」ですが、その本質に気付くことで変化のための「チャンス」にもなります。

**市長** 就任以来、「進取の精神」と「未来への責任感」を私の信条としていますが、「進取の精神」は先ほど学長が仰ったチャレンジ精神に通じるところがあります。また、未来をつくるのは今の若い人たちです。自分たちが未来をつくるために今どうすべきかという「未来への責任感」を常に持つてほしいと思います。

将来に向かってさまざまな課題がありますが、それにチャレンジし、解決することは楽しみでもあります。若者が生き生きと活躍することで、子どもたちには夢を与え、高齢者には生きがいを持つようになることを期待しています。

終わりに―

**市長** これからも豊かな教育資源を生かし、関学をはじめ高等教育機関や学生の方々と連携しながら、「学びの都 三田」として、三田市の新しい時代を一緒になって創り上げていきたいと思っています。

### 「若者の力」で

Tetsuo Mori

### 「人口減少に負けない」まちづくりを

